

水田を利用してフナ、モツゴ、タモロコの稚魚を生産する方法

河川や水田周辺環境の変化により、川の魚が減少しています。魚類資源を守るために、水田を利用した川の魚の増殖方法を開発しました。

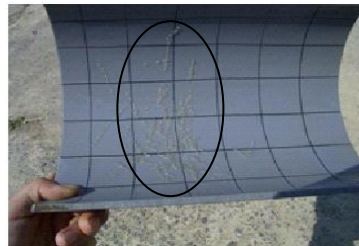
普通に稲を栽培している水田にフナ、モツゴ、タモロコの親魚を放流し、水田の中に設置した人工魚巣や塩ビ管に卵を生み付けさせます。ふ化した稚魚は、水田内のプランクトンなどを餌に成長するので、中干し時の落水と共に自然流下するところを網で採捕、回収し、河川に放流します。

稚魚の回収尾数は水田 10a あたりで、少なくともフナ 5,500 尾、タモロコ 1,200 尾、モツゴ 1,800 尾程度となります。

1 産卵用資材・・・魚種により産卵特性が異なるため、それぞれに合った資材を用いる



【フナ、タモロコの産卵に使用した人工魚巣】



【モツゴの産卵用の塩ビ管に付着したモツゴの卵（円内）】

2 採捕・回収方法



★ 排水とともに流下する稚魚を網で受け、すくい取って回収します。

3 調査結果

【稚魚の生育と回収結果】 (10a 当り)

魚種		フナ	タモロコ	モツゴ
平均体重	(g)	0.150	0.260	0.050
生産尾数	(尾/10a)	11,000	3,000	3,000
平均回収率	(%)	50	40	60
回収尾数	(尾/10a)	5,500	1,200	1,800
回収重量	(g/10a)	825	312	90

産卵時は無防備で鳥に食害されやすいので要注意!!



【親魚食害防止用の防鳥ネット】

(水産研究所 魚類資源担当 TEL 0480-61-0458)